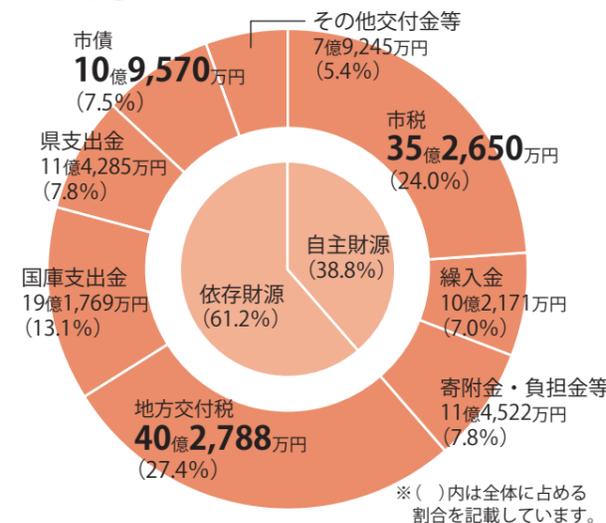


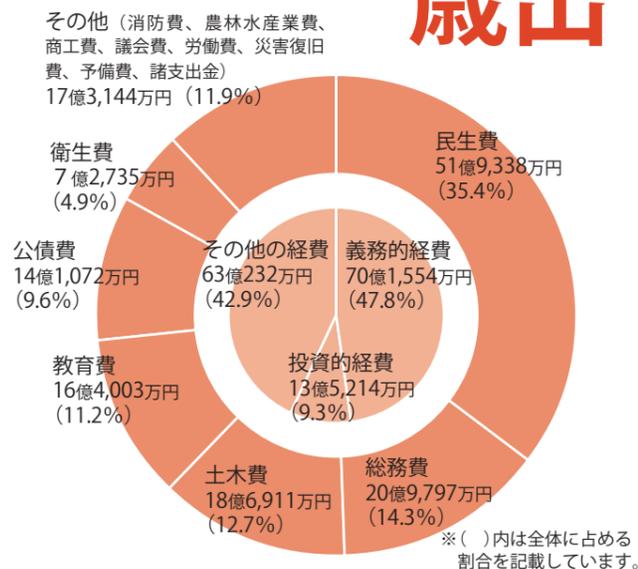
# 市政を支える、財政。



## 歳入



## 歳出



### 行財政の改善に取り組む

歳出は、総務費が病院企業団派遣職員の給与支給方法の変更に伴い20億9777万円増、1億2409万円(6.3%)の増になりましたが、病院企業団の人件費(1億6千万円)を除くと、3590万円(1.8%)の減となります。

公債費は、市債の発行を抑え、また、過去の大規模事業の償還終了により、14億1072万円増、1188万円(0.8%)の減となりました。

投資的経費は、赤湯中学校屋外運動場施設整備工事費(2億5078万円)など13億5214万円増、542万円(0.4%)の増となりました。

一般行政費・その他は、沖郷地区新保育施設整備事業費(1億5525万円)などの補助費等の増で63億232万円増、2億4013万円(3.9%)の増となりました。

## 平成31年度 南陽市の 予算

市民が誇りを持って、安心して暮らせるまちを目指し、地域の持続的な成長・発展の実現および市民生活を守ることに重きを置き予算編成しました。

一般会計予算総額 前年比**3.3%**増  
**146億7000万円**

前年度当初予算142億円

経常収支比率 93.0% (前年度93.0%)

実質公債費率 12.3% (前年度12.1%)

■一般会計の当初予算の推移



本市の財政状況は、行財政改革の着実な推進、積極的な歳出削減の取り組みおよび安定した市税収入の確保などにより、健全性が保たれています。

一般会計では、市民生活に必要な予算を確保しつつ、スピード感を持って諸課題に対応することを重視し、前年比3.3%増の146億7千万円を計上。特別会計では、前年比3.3%増の78億3582万円を計上しました。

### 市税収入は堅調に推移

歳入は、市税が堅調に推移するものと見込み、35億2650万円増、1億2384万円(3.6%)の増、地方交付税は前年度交付実績などを勘案して40億2788万円増、4731万円(1.2%)の減を見込みました。

市債は10億9570万円増、前年比2040万円(1.9%)の増を見込みました。

### 歳出は、1年間の市の支出です

歳出予算額を行政目的ごとに分類すると「福祉や医療などの経費(民生費)」、「学校教育や生涯学習などの経費(教育費)」、「ごみ処理などの経費(衛生費)」などに分けられます。

歳出全体に占める割合は民生費が最も高く、予算の約3分の1を占めています。これは、少子高齢化の進展に伴い、福祉や医療に必要な経費が増えていることなどが主な理由です。

歳出のうち、任意に削減することのできない経費(人件費・扶助費・公債費)のことを『義務的経費』といいます。扶助費については高齢化や医療費の増大などにより年々増加していますが、人件費と公債費の削減に努めるなど、義務的経費の割合を低くする取り組みを進めています。

## 市の借金※は着実に減少 1億7173万円を削減

31年度155億2,644万円(前年度156億9,817万円)

※一般会計の借入金残高のこと

※当初予算について、詳しくは、市ホームページをご覧ください。

南陽市 当初予算 検索



特定の収入がある事業については、お金の出し入れを分かりやすくするため、一般会計とは分けて管理しています。市には、5つの特別会計と2つの企業会計があります。

### ■特別会計

区分	当初予算額	前年度比
国民健康保険	35億222万円	6.9%
財産区	1億4,346万円	70.2%
育英事業	548万円	2.2%
介護保険	38億2,927万円	△0.2%
後期高齢者医療	3億5,539万円	△6.3%

### ■企業会計

区分	当初予算額	前年度比
水道事業会計	収益的収入	8億6,032万円 0.6%
	収益的支出	8億1,988万円 △3.0%
	資本的収入	6,954万円 △7.4%
	資本的支出	3億7,389万円 △13.7%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、減債積立金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん		
下水道事業会計	収益的収入	10億8,308万円 4.5%
	収益的支出	10億5,444万円 4.0%
	資本的収入	6億8,277万円 △2.7%
	資本的支出	11億549万円 1.8%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん		